

第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画（令和3年度から令和5年度）において設定した「日常生活圏域」について、本市の高齢者施策等の状況等を踏まえ、日常生活圏域の見直しを検討しました。

1 日常生活圏域とは

介護保険法第117条第2項に「当該市町村が、その住民が日常生活を営んでいる地域として、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備の状況その他の条件を総合的に勘案して定める区域」と規定されています。

2 本市の日常生活圏域数について

本市は平成22年3月22日に七宝町、美和町、甚目寺町の3町の合併により、あま市となりました。

合併当時、地域密着型サービスの整備計画を立てやすい観点等から、「1圏域」とし、現在に至っています。

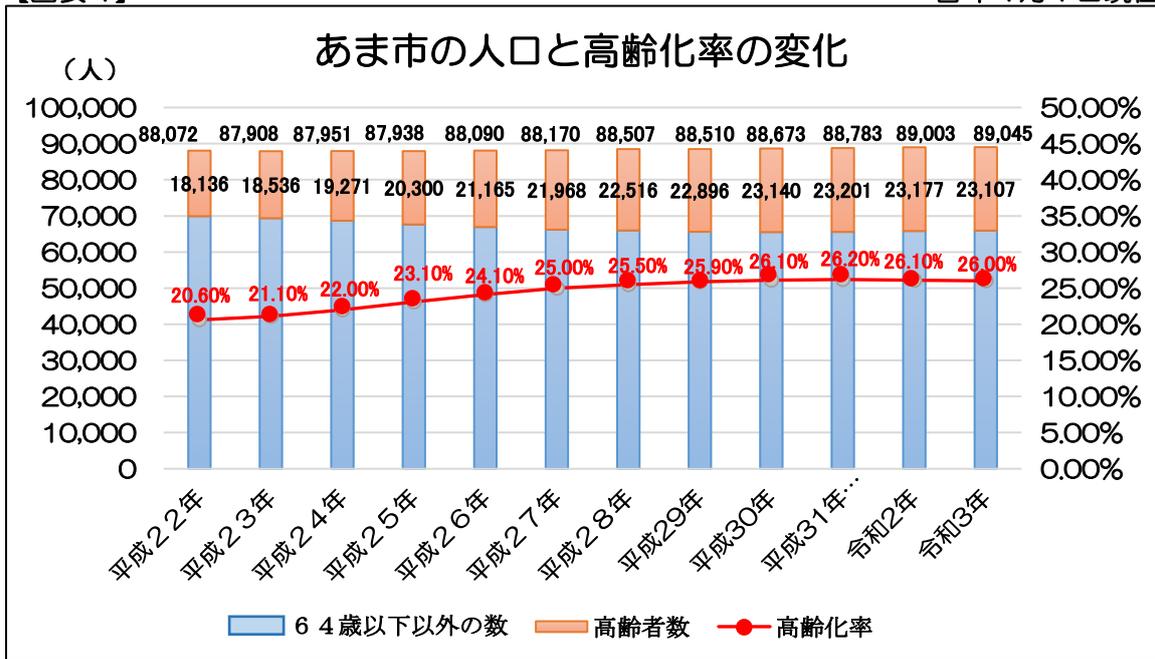
3 本市の現状について

①高齢者人口等について

【図表1】本市の合併当時（平成22年4月1日）の人口は、88,072人で、高齢者人口、18,136人、高齢化率20.6%でしたが、現在（令和3年4月1日）では、人口89,045人、高齢者人口23,107人、高齢化率26.0%となっており、4人に1人以上が高齢者になっています。

また、合併当時から比べると、12年間で人口は約1,000人の増加であるのに対し、高齢者人口は約5,000人、高齢化率は5.4ポイント増加し、高齢化が進んでいます。

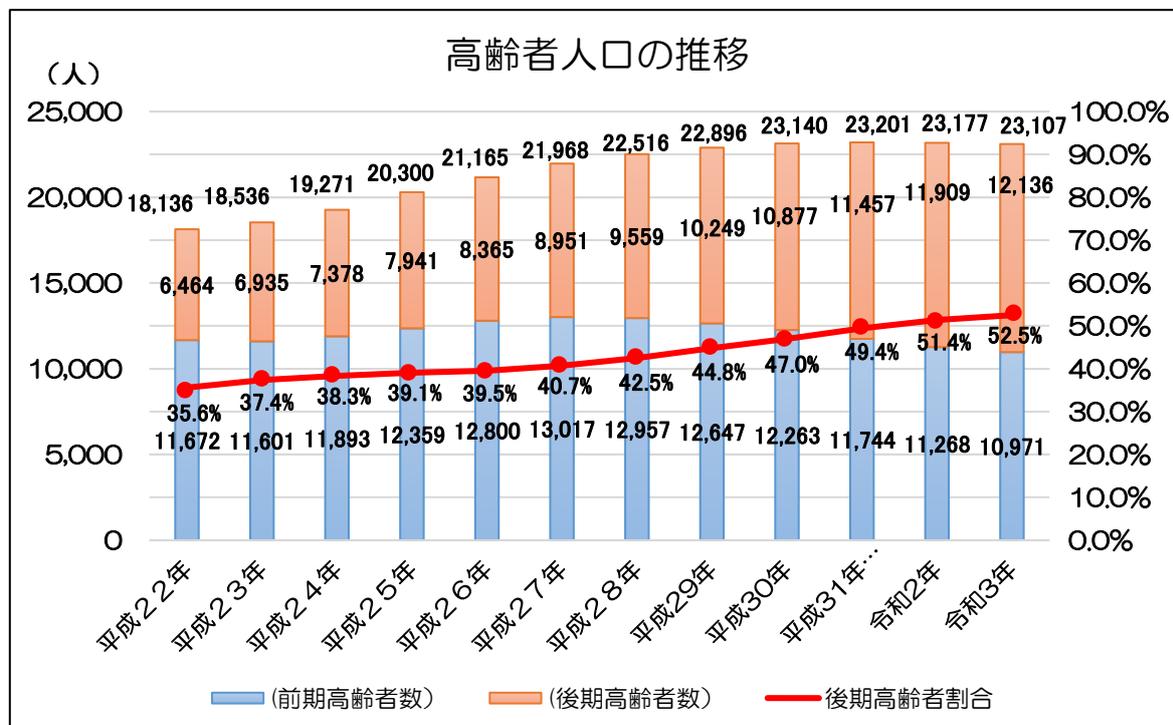
【図表1】 各年4月1日現在



【図表 2】 高齢者人口の推移を前期高齢者・後期高齢者別にみると、前期高齢者は、平成 27 年をピークに平成 28 年以降は減少しているのに対して、後期高齢者は合併当時から増加を続け、令和 3 年 4 月 1 日現在では、12,136 人と合併当時の約 1.9 倍となっています。

後期高齢者割合では、合併時より徐々に高齢者割合が増え、ついには、令和 2 年に 51.4% となり、後期高齢者が高齢者の半分以上となりました。

【図表 2】 各年度 4 月 1 日現在



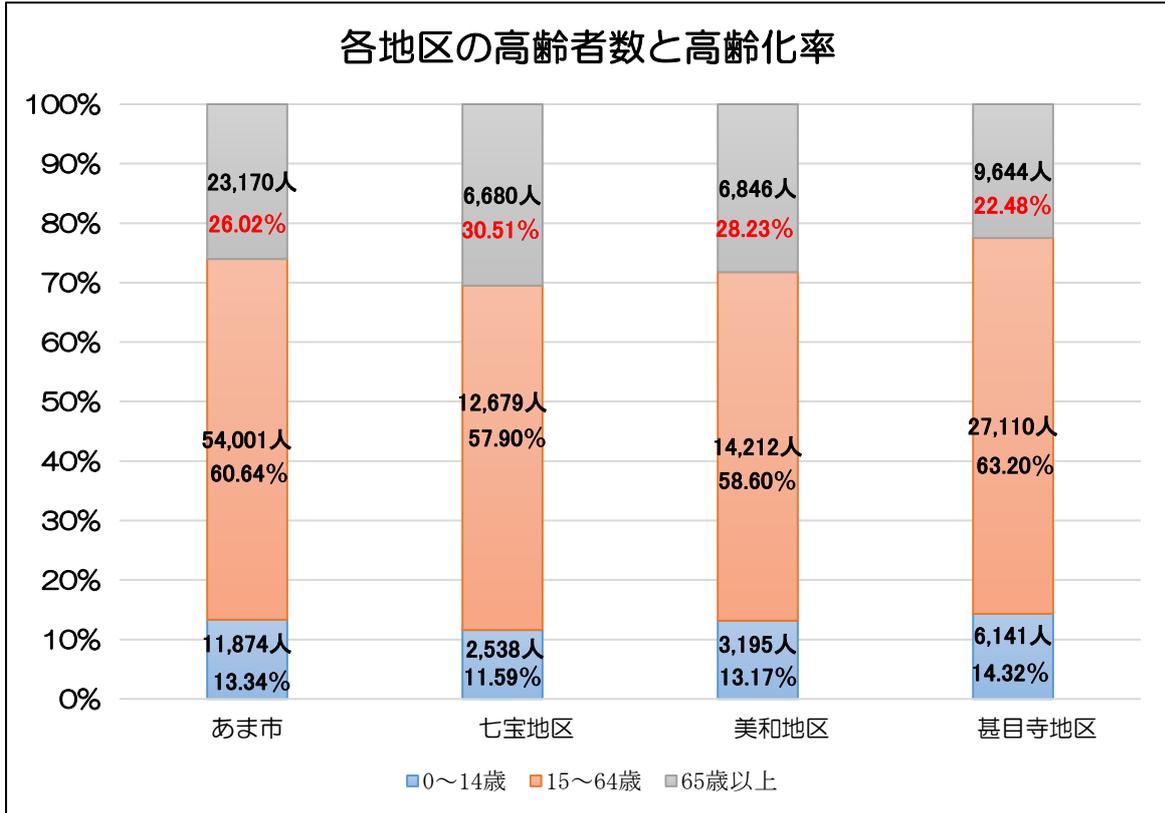
【図表 3】 各地区の高齢者数と高齢化率は、七宝地区で高齢者数 6,680 人、高齢化率 30.51%、美和地区で高齢者数 6,846 人、高齢化率 28.23%、甚目寺地区で高齢者数 9,644 人、高齢化率 22.48% となっています。

七宝地区と美和地区は、0 歳～14 歳（年少人口）、15 歳～64 歳（生産年齢人口）の割合が、あま市全体と比べて低くなっており、65 歳以上（高齢者人口）の割合は市全体と比べ高くなっています。特に七宝地区の 65 歳以上（高齢者人口）の割合は 30.51% と高くなっており、市全体での割合と比べ 4.49 ポイント高く、3 地区の中ではもっとも高齢化が進んでいます。

一方で甚目寺地区は、0 歳～14 歳（年少人口）、15 歳～64 歳（生産年齢人口）共に市全体の割合よりも高くなっており、65 歳以上（高齢者人口）割合は市全体割合と比べ 3.54 ポイント低くなっています。高齢化は他の地域に比べあまり進んでいませんが、65 歳以上（高齢者人口）の人数は、3 地区の中で最も多い 9,644 人となっており、最も少ない七宝地区に比べ 1.44 倍となっています。

【図表3】

令和3年4月1日現在

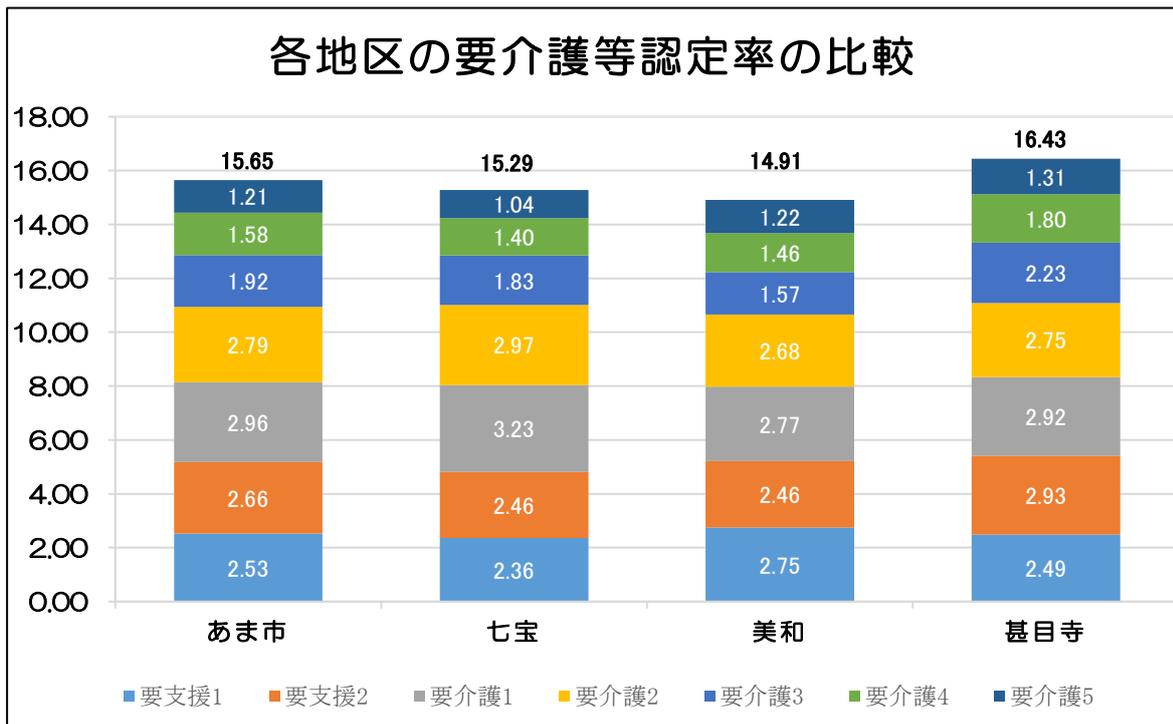


【図表4】各地区の要介護等認定率の比較では、美和地区が市全体と比べ0.74ポイント、七宝地区では、0.36ポイント低くなっており、認定率が市全体と比べ低くなっています。

一方で、甚目寺地区が16.43となっており、市全体の15.65ポイントよりも0.78ポイント高くなっています。

【図表4】

令和3年4月1日現在



②介護サービス事業所について

【図表5】平成22年4月1日時点での介護サービス事業所数は、46事業所でしたが、令和3年4月時点では、107事業所となっており、約2.3倍の事業所数となっています。

地区別で見ますと、令和3年4月1日時点では、七宝地区30事業所（20事業所増）、美和地区23事業所（9事業所増）、甚目寺地区54事業所（32事業所増）となっており、特に甚目寺地区に事業所が増えています。

介護サービス種別では、施設、居宅、地域密着型それぞれのサービスがともに12年間で増加していますが、特に居宅サービスが40事業所と大幅に増加しています。

【図表5】介護サービス事業所数の推移

①平成22年4月現在					②令和3年4月1日現在					②-① 増減数		
介護サービス種類		七宝 地区	美和 地区	甚目寺 地区	合計	介護サービス種別		七宝 地区	美和 地区		甚目寺 地区	合計
施設 サービス	介護老人福祉施設(特養)	0	1	0	1	介護施設	介護老人福祉施設(特養)	0	1	1	2	1
	介護老人保健施設(老健)	1	0	0	1		介護老人保健施設(老健)	1	0	0	1	0
居宅 サービス	居宅介護支援	1	3	5	9	居宅 サービス	居宅介護支援	6	7	14	27	18
	訪問介護	1	1	2	4		訪問介護	5	1	13	19	15
	訪問看護	1	0	2	3		訪問看護	3	1	4	8	5
	通所介護	2	5	10	17		通所介護 ※	4	4	7	15	-2
	通所リハビリテーション	1	0	0	1		通所リハビリテーション	2	0	0	2	1
	短期入所生活介護(ショートステイ)	0	1	1	2		短期入所生活介護(ショートステイ)	0	1	2	3	1
	短期入所療養介護	1	0	0	1		短期入所療養介護	1	0	0	1	0
	福祉用具貸与・特定福祉用具販売	1	2	1	4		福祉用具貸与・特定福祉用具販売	1	2	3	6	2
地域 密着型 サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	0	地域 密着型 サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	1	1	1
	-	0	0	0	0		地域密着型通所介護 ※	3	4	6	13	13
	小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0		小規模多機能型居宅介護	1	0	0	1	1
	認知症対応型共同生活介護	1	1	1	3	認知症対応型共同生活介護	3	2	3	8	5	
合計		10	14	22	46	合計	30	23	54	107	61	

※地域密着型通所介護は、平成28年4月1日から、介護保険法の一部改正により通所介護の一部(小規模な通所介護)が地域密着サービスへ移行しています。

③地域包括支援センターの現状について

【図表6】現在、本市に設置されている地域包括支援センターは、市が直接運営している「あま市地域包括支援センター」と市から委託を受けた社会福祉協議会が運営している「あま市社会福祉協議会地域包括支援センター」の2箇所となっています。

市は高齢者等が住み慣れた地域で安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、介護保険制度によるサービスのみならず、地域の多様な社会資源を活用できるよう「地域包括ケアシステムの深化・推進」を目指し、高齢者福祉計画・介護保険事業計画を基本とした、各種事業を実施しています。

また、高齢者等の尊厳ある暮らしを続けられるよう高齢者等虐待をはじめとした「権利擁護業務」を実施しています。

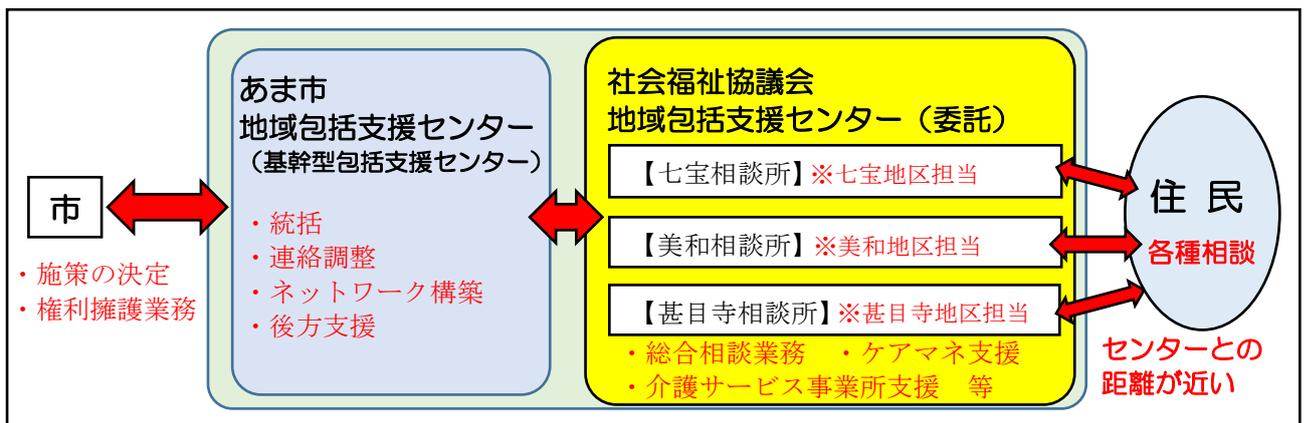
市が直接運営をする「あま市地域包括支援センター」は、市が策定した認知症施策をはじめとした各種事業を実施しています。

また、あま市地域包括支援センターは基幹型包括支援センターとして、「社会福祉協議会地域包括支援センター」との連絡調整、関係機関とのネットワーク構築、包括活動の下支えとなる後方支援等の地域包括支援センター業務全体をまとめる役割を担っています。

一方で「社会福祉協議会地域包括支援センター」は、七宝、美和、甚目寺の各地区に相談窓口を設置し、より身近に高齢者等からの各種相談を受ける「総合相談支援業務」を実施しています。

また、「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務」として居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）や地域の介護サービス事業所への相談・支援も実施しています。

【図表6】地域包括支援センター配置イメージ

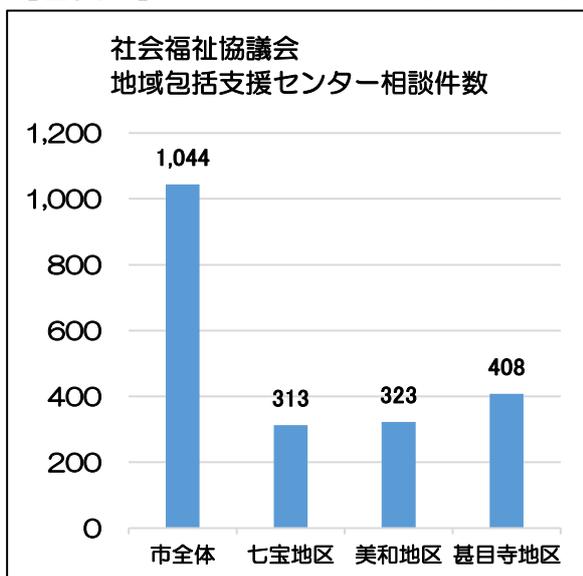


④地域包括支援センターへの相談件数と虐待通報件数について

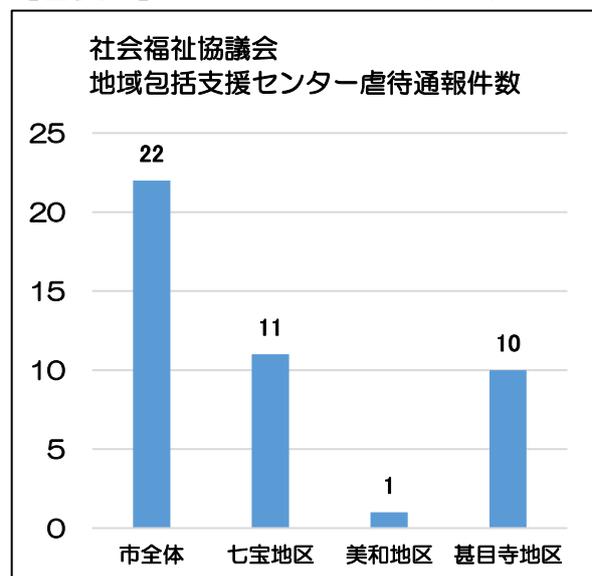
【図表7】、【図表8】相談件数では、七宝地区313件、美和地区323件、甚目寺地区408件となっており、高齢者人口が多い地域に比例して相談件数も多くなっています。

しかしながら高齢者虐待通報件数では、高齢者人口が一番少ない七宝地区が11件と最も多く、続いて甚目寺地区10件、美和地区1件となっています。

【図表7】 令和2年度実績



【図表8】 令和2年度実績



4 本市の現状と各地域の特徴について

先に述べた本市の現状から本市と各地区の特徴は次のとおりとなります。

【あま市】

- ・人口の伸びは、合併当時から、ほぼ横ばいであるが、高齢者数は合併当時から増加している。
- ・高齢化率が26%を超え4人に1人以上は高齢者となり、高齢化が進んでいる。
- ・前期高齢者数は減少しているが、後期高齢者数は増加しており、高齢者の内、後期高齢者の占める割合が52.5%と半分以上となっている。
- ・介護サービス事業所は、施設サービス、居宅サービス、地域密着型サービス共に事業所数は増加しているが、居宅サービスが40事業所の増加と大幅に増えている。
- ・地域包括支援センターの相談窓口は、各地区に設置しており、相談件数は、高齢者人口に比例して相談件数が多くなっている。

【七宝地区】

- ・3地区の中では高齢者人口が一番少ないが、高齢化率は一番高く、高齢化が進んでいる。
- ・高齢化率は、30.51%と3地区の中でも一番高いが、要介護等認定率は15.29%とあま市全の15.65%より低い。
- ・虐待通報件数が、他の地区よりも多い。

【美和地区】

- ・高齢化率が28.23%とあま市全体の26.02%を超えており、高齢化が進んでいる。
- ・要介護等認定率が14.91%と3地区の中でも一番低く、元気高齢者が多い地域と言える。
- ・居宅サービス事業所数が一番少ない。

【甚目寺地区】

- ・3地区の中で人口、高齢者人口が最も多い地区。
- ・高齢化率は22.48%と低く、あま市全体の26.02%を大きく下回っている。
- ・高齢化率は3地区の中で最も低いが、要介護等認定率は、16.43%と3地区の中で一番高い。
- ・介護サービス事業所数は、地区に54事業所所在しており、あま市全体の半分以上を占めている。

5 日常生活圏域の見直しについて

本市の日常生活圏域は、合併から市全域を1圏域と設定してきました。第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画（令和3年度から令和5年度）においても引き続き、あま市全域を1圏域としていますが、次期第9期計画においては、面積や人口

だけではなく、地域の特徴などを踏まえて設定する必要があるため、見直しを検討しました。

見直しについては、次の「①各地域の高齢化率と要介護等認定率」、「②介護サービス事業所の整備」、「③地域包括支援センター相談窓口」の観点から圏域の再設定が必要かどうか判断しました。

① 各地域の高齢化率と要介護等認定率

本市の現状と各地域の特徴から、高齢化率については、地区ごとに大きな違いが見られるが、要介護等認定率については、高齢化率に比例していないため、高齢化率や要介護等認定率の違いだけで、地区ごとに違う施策を展開することは適切ではなく、市全体で施策を展開した方が適切であると判断しました。

② 介護サービス事業所の整備

介護事業所全体の配置では、甚目寺地区に集中しているが、高齢者人口等の観点から判断すると適切な配置であると考えられます。

また、市が直接整備可能な認知症対応型共同生活介護事業所をはじめとした地域密着型サービスについては、合併当時から3地区にバランスよく整備を進めてきました。

そのため、今後も、日常生活圏域ごとに整備計画を作成するよりも、市全体での整備計画を策定する方が、市民に理解を得やすいと判断しました。

③ 地域包括支援センター相談窓口

社会福祉協議会地域包括支援センター相談窓口は、市民との距離が近く、すぐに相談ができるよう各地区に設置しています。

また、高齢者等が各相談窓口に来所できない場合等は、積極的に自宅に訪問し、相談等を受けています。

相談件数については、高齢者人口に比例する形で人口が多い地区ほど相談件数が多くなっている。そのため、今後は、人員配置の見直しを行うことで解決できると判断しました。

さらには、市民からの窓口増設等への要望が無い状況であり、ニーズにマッチしていると考えています。

以上の重点項目を含め、様々な角度から見直しの検討を実施しましたが、次期第9期計画においても、日常生活圏域を引き続き「1圏域」とします。

6 今後の展開について

先に述べたとおり、本市における日常生活圏域は引き続き「1圏域」とします。しかしながら、今回の見直し検討で、各地区において各種様々な特徴が見られるようになってきました。

今後、本市においては、各種様々な特徴を正確に捉え、可視化をすることで「強み」、「弱み」を整理し、特に「弱み」については、市全体の課題として施策に反映していきます。